

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 鶴見大学 名誉教授 福島 俊士 先生
2. 演 題 延長ブリッジを考える
3. 日 時 平成27年7月16日(木)17:00～18:00
4. 場 所 歯科棟南4階 歯学部特別講堂
5. 抄 録

延長ブリッジは、教科書的には「延長ブリッジはやむをえない場合を除いて極力避けたほうが無難である。」(クラウンブリッジ補綴学、第5版、2014)とされているが、社会保険では4⑤⑥、5⑥⑦、③④5などの小臼歯をポンティックとするもの、大臼歯では7欠損に対する半歯ほどのポンティックについて認められている。一方、北欧でのデータでは、18年後の生存率41/137例(70%)(Decock et al, 1996)など経過の良いものが少ない。延長ブリッジを巡る問題点を考えてみたい。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線5521)